

東日本大震災から1年以上が経過した 今こそ知りたい防災対策について

ある事務職員のお話

平成23年3月11日金曜日午後2時46分、東日本大震災が発生しました。経験したことのない長い揺れの後、病院周辺も停電に見舞われ、電子カルテも使えなくなったので急を要する患者さんのみ診療を行い、救急外来以外はすべての外来を終了させました。

建物関係では、西館を囲むように土台が少し浮いたような状態となり、建物の安全性が確認されるまで、西館の全患者さんをアネックス館や東館まで移動させるという事態も起こりました(地震当日中に専門業者による建物の安全性が確認され、後日適切な工事がされています)。当初は西館1階に対策本部を置きましたが、より安全な場所へ指揮を執るべきとの判断で東館1階に本部を移動しました。携帯電話、PHSが繋がらない中、公衆電話だけはかろうじて通話可能というところもあり、電話の前には患者さんの長い列ができました。院内

PHSは通じたので院内での職員同士のやりとりは比較的スムーズにできました。

入院患者さんの食事提供ができませんか懸念されましたが、いつもよりは多少時間を要したものの全ての患者さんに夕食を提供することができました。時間の経過とともに灯りが必要となり、防災用に保管していた懐中電灯に電池を入れたのですが灯りがつかないというトラブルも起こりました。原因は保管していた電池の期限切れによるものでした。近隣の商業施設、商店が次々と店じまいをする中、必要な物品を確保するため、数班に分かれてまだ開いているお店を探して患者さん用の食料品や乾電池等を購入しました。普段なら30分も要しない買い物に2時間も時間を割く結果となり、追加で必要な物品が出てきても、通信手段がないため買い出しに出かけた職員とのやりとりもできませんでした。

停電のため、TVやインターネットによる情報収集が困難でした。急遽ラジオを1台用意しましたが建物内は電波の入りが悪く、あまり有効ではありませんでした。やむを得ず病院車を玄関前に置き、車のライトで対策本部を照らし、カーラジオで情報収集をしました。街全体が暗闇に包まれる中、近隣の施設に避難している方たちがトイレを貸してほしいと西館に集まってきました。西館トイレは水槽に入っている分には水が流れたので、数十名に貸しましたが、それ以上貸してしまうと水槽の水がなくなる可能性もあり、患者さん優先に切り換えざるを得ない状況となりました。

記憶では午後9時前後に電気が復旧し、院内は安堵に包まれました。西館建物の安全性は確認されたものの、アネックス館・東館に移動した患者さんとその日のうちに西館に戻す作業

品名	数量
ハンドメガホン	5
ラジオ(本部用)	1
本部用ブルーシート	10
救護所用ブルーシート	3
トラロープ	200m
養生テープ	20
ポリタンク(水用)20L	15
バケツ	15
ウェス	6kg
ゴーグル	12
軍手	24
皮手袋	10
ゴム手袋	18
警笛	14
ロープ(10m)	10
運搬台車	1
クーラーボックス	4
非常時食用器	
紙コップ(100個入)	18
紙皿(小皿)50枚入	44
紙丼(50枚入)	6
使い捨てスプーン	250本
カセットコンロ	6
エンジン発電機	1
延長コードリール(30m)	4
投光器(200w)	6
対策本部用折り畳み机	1
対策本部用折り畳み椅子	5
救護所用折り畳み机	2
救護所用折り畳み椅子	20
防火衣	4
懐中電灯(ダイナモタイプ他)	27
ハンドメガホン(外来用)	12
ヘルメット(予備)	5
テント	2
ホワイトボード	1
マンホールトイレ	3
トイレ用テント	3
入院患者用非常食水	
立山天然水2L(6本入)	15

※倉庫場所: 東館裏 旧第1駐車場
※鍵保管場所: 西館1階守衛室キーボックス
2012.01.12時点

第14回 現場にアタック 防災対策について知りたい

○非常照明の増設
ナースセンター・病室・廊下・一部の外来診察室に設置

↓以前は停電になると、管理資材課の職員が右記の場所に、配線を張りめぐらせて照明を供給していましたが、現在は管理資材課の職員が不在時でも、非常照明が付くようになっていました。

○各部署の棚の固定
↓それまでは院内すべての棚が固定されているわけではありませんでしたので、東日本大震災の教訓から、すべての棚を固定する工事を行いました。

○互恵会ビル耐震補強工事
↓震災後、互恵会ビルは耐震診断の結果、補強が必要との診断でしたので、補強工事を行いました。

○防災倉庫の設置(リスト参照)
この様に、照明や食料また災害時の備品等を1年かけて準備してきました。災害時に職員が、患者さんや地域のために、安全に行動できるような体制作りは今後も続けていきます。部署内で、何が必要なのか、こちらも共有してみたいかがありませんか。

5月24日の防災訓練で、大船消防署の方から、病院は民営であつても公的意味合いが強いので、災害時に住民が押し寄せる可能性があると言われました。重傷者はある程度の受け入れは必要ですが、軽傷者は広域避難場所を待機して頂くことになるでしょう。

○3日分の食料の備蓄
↓現在、入院患者さんの食料は、給食事業請負業者である三菱電機ライフサービス株式会社さんに3日分備蓄してもらっています。調理をする必要がなく、水を入れるだけで戻る炊き込みご飯などが備蓄されています。

職員用の食料は、以前は備蓄していませんでしたが、病院は災害時も稼働していますので、500人分のビスケット缶を3日分、院内に備蓄しています。ブルボンのプチシリーズが5種類入った缶で5年間保存できます。災害時に勤務している職員に1日分として1人1缶渡す予定です。

地域の広域避難場所を調べてみると鎌倉女子大学となっていました。他にも「ミニ二防災拠点」という名前で大船小学校、大船中学校が避難場所になっていました。頭の片隅でいいので、ぜひ覚えておいてください。



広報室からNEWSです!

「病院の食事を美味しくしよう」プロジェクト始まる!

先日の互恵会理事会で、職員と患者さんの食事を美味しくして元気を治る力を発揮してもらおうということが決まりました。

これまで三菱電機ライフサービス株式会社に委託されていたが、今後ライフサービスも含めて皆さんが

書店を覗くと社員食堂を前面に出したレシピ本が数多く平積みされています

そこで「病院の食事を美味しくしよう」プロジェクトが始まりました。実務には栄養科、経営戦略室、広報室が

「病院の食事を美味しくしよう」プロジェクト
広報室室長 高塚 健太郎

を遊ぶのは職員の皆さんです。そこでプロジェクトチームのメンバーを募集します。我こそはという方、ぜひ広報室までご連絡ください。本プロジェクトの目玉企画は委託候補業者による「試食会」です。実際に食べてみて美味しいと思える食事をぜひご期待ください。



院内のIT環境の整備と充実を目指し広報室では、全職員へ電子メールアドレスの配布を実施しています。

なぜ全員にアドレスが必要なのか? キーワードは「共有とエコー」です。つまり、電子メールで院内の情報交換を円滑にして情報を共有化し、紙媒体の情報をデジタル化してペーパーレスによるコスト削減を目標にしています。

先日、各部署に申請用紙を配布させて頂きました。アドレスを皆さんに配布する準備はすでに出来ています。申請はいつでも受け付けて頂けたらと思います。

さらに職員間の活発な情報交換の場としてOASISというメールマガジンがあります。より良い病院作りの為にもアドレスを取得してOASISにご参加ください。ご意見・ご要望・アドレスがございましたら気軽にご連絡ください。